



2020~21年度 D-2700 No. 20 2020年12月18日

小倉ロータリークラブ 週報

R I テーマ：“ロータリーは機会の扉を開く”

R I 会長：ホルガー・クナーク 氏
(所属：ドイツ、ヘルツォークトゥム・ラウエンブルク・メルンRC)

地区テーマ：“日本のロータリー100周年

「新しいロータリーは機会の扉を開く」

地区旗バナー：古賀 英次氏(所属：柳川RC)

クラブテーマ：“OPEN THE DOOR TO CHANCE”

会長 松永 浩 / 幹事 豊川 智彰



タンの中村さんの部屋には金五郎さんの写真を飾っていました。「中村哲さんと金五郎さんを見ると、考え方、行動パターン、風貌までそっくりで重なる部分が多い」と言われています。玉井金五郎夫婦、火野葦平さん、中村哲さん、ギラヴァンツ北九州社長の玉井さんを世に送り出した「玉井家」は「郷土の誇り」だと思っています。「玉井家」が残したものは我々ロータリアンの I serve による職業奉仕に繋がるものだと強く感じました。

幹事報告

豊川 幹事

・来週は、本来であれば年忘れ家族夜間例会の予定でしたが、すでにご案内のとおり、金曜日お昼の普通例会に変更となっています。お間違えの無いようにお気をつけてください。なお、食事に、特別にデザートが付きますので楽しんでいただければと思います。

・再来週の 25 日（金）はクラブ協議会です。委員長は上半期の活動報告をしていただきますので、必ずご出席くださいますようお願ひいたします。

出席報告

大曾根 委員長

2020 年 7 月 1 日 : 59 名でスタート

	会員数	出席者数	メークアップ [°]
当日の出席	67 名	36 名	—
先週の出席	67 名	44 名	15 名

◆ゲスト 1 名 (卓話者)

◆ビジター 0 名

ニコニコ献金

児島 副 SAA

1,000 円 : 今年度累計金額 199,000 円

甲木 正子 君

山崎くん、今日の卓話楽しみにしています！！
(君づけで呼ぶ間柄のようです。)

委員会報告

クラブ会報委員会

宮島 委員長

『ロータリーの友 12 月号』の記事の紹介です。7 ページから 9 ページには、世界のロータリーのコロナ禍での例会の事情が報告されています。感染拡大が広がる海外では、外出規制などもあり、例会はほぼオンラインになっているそうです。

また、93 ページから 90 ページには有害物質の健康に与える影響ということで、ちょっと難しいですがアレルギーに関することなどについて書かれてありますので読まれてください。

米山功労者表彰

西村 和芳 君

第 2 回マルチプルの感謝状が贈されました。



<表彰制度について>

個人の特別寄付金の累計額が 10 万円に達したときに、第 1 回米山功労者として表彰され、感謝状が贈られます。第 2 回から第 9 回(20 万円～90 万円)に達した方を「米山功労者(マルチプル)」、第 10 回以上(100 万円以上)の方を米山功労者(メジャードナー)と呼び、10 万円ごとに感謝状、100 万円ごとにピンバッジが贈られます。

卓 話

(株) 西日本新聞社 政経部長

山崎 健 氏

『トランプ退場 「新冷戦」の行方』



2013 年 8 月から約 3 年半、米国のワシントン支局に勤務。4 年前の大統領選で、世界中の予想を覆してドナルド・トランプ氏がヒラリー・クリントン氏を破って第 45 代米合衆国大統領に就任した現場を取材した。そのトランプ氏を今回、バイデン前副大統領が破った。トランプ氏は今なお「選挙に不正があつた」と主張しているが、来年 1 月 20 日にはバイデン新政権が確実に発足する。本日は、トランプ時代に「新冷戦」とも言われるほど緊迫化した米中関係の今後の行方について私なりにお話しさせていただく。

トランプ政権の 4 年間を振り返ると、米国第一を掲げ、これまで国際社会を主導してきた米国が国際協調路線から撤退した姿が顕著だった。オバマ政権が推進

した環太平洋連携協定（TPP）への不参加、地球温暖化対策の国際社会の新しい枠組みであるパリ協定からの脱退、新型コロナウイルスを巡っては世界保健機関（WHO）からの離脱も表明した。それと同時に際立っていたのが中国への厳しい姿勢だった。そもそもなぜ、特朗普氏は中国に強硬な姿勢を取ったのだろうか。それはまさに、大統領の座を勝ち取った4年前の選挙戦略であり、今回の再選戦略の柱だったのだ。

4年前、特朗普氏を大統領に押し上げたのは白人労働者層だった。敗れたとは言え、今回の選挙でも、岩盤支持層として特朗普氏を支えたのは彼らだった。安い製品をどんどん米国に輸出して、工場を閉鎖追い込み、米国人の仕事を奪っていると中国を攻撃し続けることで、こうした労働者からの支持を拡大できると特朗普氏は確信していたのだ。



米国は今や1%の富裕層と99%の中間・貧困層に断絶された超格差社会だ。しかも、その僅か1%の人たちの資産の合計が、99%の人たちの資産の総額よりも多いとさえ言われている。「中国から奪われた雇用を取り戻す」という特朗普氏の訴えが、まさに99%の中間・貧困層の中核である白人労働者の心に響いたのは、必然とも言えた。その代表的な地域が、米国東部から中西部にかけての旧工業地帯、「ラストベルト」だった。

今回、特朗普氏は全米で約7100万票以上を獲得した。7500万以上を獲得したバイデン氏には及ばなかつ



たものの、これまで過去最高だった2008年のオバマ大統領が獲得した6900万票をも上回った。選挙後、バイデン氏は国内融和を掲げており、特朗普氏を支持した白人労働者の存在を、もはや無視できない状況にある。しかも選挙中、特朗普氏に「中国寄りだ」と攻撃されたバイデン氏は特朗普氏と同様に中国批判を繰り返していた。すぐに中国との関係改善に動く可能性は低い。特朗普政権のような単独ではなく、日本をはじめとするアジア、欧州の同盟国と協力して中国に圧力をかけていくだろう。



お詫びと訂正

週報 NO.19(12月11日発行)

2頁 ニコニコ献金の1行目

誤：坪根 副 SAA

正：伊井 SAA

お詫びして訂正いたします。

米山記念奨学会「特別寄付金」



例会当日寄付者

・小島 庸匡

合計 2020～21年度累計金額

5,000円 395,000円

次回例会予告

12月25日(金) 普通例会

- ・ロータリーソング “それでこそロータリー”
- ・クラブ協議会（上半期活動報告等）